

造山古墳ビジターセンターの機能拡充の概要

(1) 機能拡充のコンセプト

吉備とは令制下の備前国、備中国、備後国、美作国の範囲であり、現況の行政区では岡山県全域と広島県東半の広域に相当する。『日本書紀』では、大王に対して三度も反乱伝承を有する豪族の拠点とされ、同時期の大王墓と同等規模の造山古墳、作山古墳、両宮山古墳が築かれていることから、大和王権に匹敵する勢力のあった地域と考えられてきた。

吉備を地形から見ると、南端は瀬戸内海に面した岡山平野、その北側は吉備高原が広がり、さらに北側には盆地列、そして日本海側との境を画する中国山地が東西に連なる。そのうち遺跡が最も集中するのは岡山平野で、吉備の中核地であった。岡山市を中心として、倉敷市、総社市、赤磐市などと重なる。

古墳時代の日本列島は倭国と呼ばれ、同時期では最大規模の前方後円墳が令制下の大和国、河内国、和泉国に築かれている。そのため、それらの国々を直接的な基盤としていた大和王権が倭国を統治していたと考えられている。

岡山市には、墳長が 350m の造山古墳が築かれている。全国で 4 番目の規模である。最も大きい古墳が墳長 486m の大山古墳（仁徳陵古墳）、2 番目が墳長 425m の誉田御廟山古墳（応神陵古墳）、3 番目が墳長 360m の上石津ミサンザイ古墳（履中陵古墳）である。造山古墳も含め、いずれも 5 世紀前半に築かれており、吉備は大和王権に次ぐ地方勢力と理解されてきた。

ところが、近年の発掘調査で造山古墳から埴輪列が見つかり、その埴輪の特徴から 5 世紀初頭に築かれたことが明らかになった。同時期の大王墓は大阪府の上石津ミサンザイ古墳（履中陵古墳）である。造山古墳とほぼ同規模であり、同時期で墳長が 300m を超える古墳も、この 2 墳だけである。突出した規模の古墳が、吉備と大和王権にのみ築かれている。

さらに、『古事記』、『日本書紀』には、大和の大王と吉備の豪族の間で婚姻関係を結んだという伝承が複数ある。また、各地の国造には吉備の系譜を引く豪族が認められ、吉備からも地方官を派遣していたことが推測される。

加えて、造山古墳の陪塚からは朝鮮半島から舶載された馬形帯鉤、龍文透金具、多孔鈴が出土し、それらは大和王権には見られない。吉備は、独自で朝鮮半島と交易していた。さらに、岡山市、倉敷市、総社市、赤磐市域では、渡来人が住んだ集落や葬られた古墳が見つまっている。吉備には、数多くの渡来人がやってきていた。渡来人を惹きつける魅力のあった地域であった。

造山古墳の前方部上には、熊本県産の溶岩を削り抜いた石棺がある。さらに、陪塚の千足古墳からは福岡県に分布する横穴式石室と同形態の石室内部に、熊本県産の砂岩を用いた石障を設置し、石室壁面には香川県産の安山岩が積まれている。造山古墳の周辺に、九州、四国、中国地域の人々が結集していたことを物語っている。

つまり、造山古墳の時代、吉備は中、四国、九州地域の盟主であり、独自で朝鮮半島と交易を行っていた。その結果、大王墓と同等規模の造山古墳を築いたのである。そのような吉備を、大王の配下に位置づけることは妥当性を欠くのではないか。むしろ、大和と吉備が倭国を共同統治していた、いわば二頭政治を行っていた時代があったとすることが正当な評価ではないかとしたのが「新倭国論」であり、岡山市が提唱した新説である。吉備の歴史には、教科書を塗り替える可能性がある。

郷土の歴史が日本の古代史を書き換える可能性があることは、市民の自信と誇りに繋がり、さらに巨大なモニュメントである古墳は吉備への観光誘客のための強力なアイテムになるとして、観光施策の中心の一つに据えている。

造山古墳以外でも、倉敷市の楯築墳丘墓、造山古墳の後継者である総社市の作山古墳、赤磐市の両宮山古墳は、古代吉備の評価に大きく関わっている。近年、4遺跡とも発掘調査が進展している。また、それらは平成30年5月に認定された「日本遺産」の「桃太郎伝説の生まれたまち おかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」の構成文化財となっている。

ところが、古代吉備の歴史を体系的に見学し、体感出来る施設が見当たらない。いわば、吉備は備前国、備中国、備後国、美作国に分割されたまま、真価が発信されていない印象が強い。したがって、吉備が最も輝いていた時代に築かれた造山古墳の近辺に現在ある「岡山市造山古墳ビジターセンター」の展示機能を拡充し、吉備の魅力アップを図ることが急務である。

展示内容は古代吉備（弥生時代・古墳時代）を対象とし、倉敷市、総社市、赤磐市（「日本遺産」関連市）の資料も包括できる構成としたい。

（2）展示構成

一般的に見学者は、現地での実物展示を期待している。また、岡山市では発掘調査による出土遺物も蓄積されている。しかしながら、古代吉備を知ることのできる遺物が揃っていないわけではない。そのため、岡山市が所管する出土遺物を中心とした実物展示と、他市や他機関、大学などが所管する出土遺物を借用して展示する。さらに、常設展示での借用が難しい場合、そのレプリカを制作して展示する。

展示は、吉備が古代において輝いていたことを展示物によって示すとともに、それに至った道筋や、日本史のなかでの吉備の位置づけを最新の学説に沿って説明する。岡山市民が吉備のすばらしさを実感できる場であり、市域外からの見学者も吉備のすごさを理解してもらう場とする。

また、春季、秋季には特別展を開催する。

（3）機能拡充場所

岡山市造山古墳ビジターセンター敷地内での施設建設等を含む展示機能拡充を図ること

とし、不足する駐車場については周辺の土地の確保を検討している。

(4) 既存の造山古墳ビジターセンターの概要

開館日：令和2年4月1日

建物面積：124.57㎡

開館時間：10時～15時

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は、翌平日）

年間来場者数（令和6年度）：17,625人

駐車台数：26台（うち障がい者用2台）

(5) 業務内容

- 常設展示の管理と更新
- 企画展の開催
- 観光ボランティア団体との連携
- 施設管理
- 資料の調査、収集

計画箇所（広域）



計画箇所（詳細）



